

2022年(令和4年)5月6日(金曜日)

♡ 富士山のイメージ

「富士山をイメージして、その形を絵に描いてください」。こう言われたら、皆さんはどんな絵を描くでしょうか。新幹線の車窓から見えるような富士山を描く人、その山頂に浮かぶ雲まです描き添える人……。中には、真上から見下ろした山の形をイメージして「◎(二重丸)」を描く人もいるかもしれません。対象となる富士山自体の形は変わりません。ところが横から眺めるのか、上空から見下ろすのか等々、観察者の視点がど

道徳で人と社会を幸せに

ここに置かれるかによって、その見え方やとらえ方はまったく異なってくるのです。このことを私たちの日常に置き換えて考えるとどうでしょうか。人は自分中、心に物事を考える傾向があります。しかし、それを相手や第三者の立場からの見方に変えてみると、自分の視野が広がって、新たな発見があるかもしれません。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『「ニューモラル」の心を育てる』編著者 三浦 浩二

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー—道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)5月13日(金曜日)

♡ 食卓で深まる家族の絆

食事を人と共にしたとき、一人で食べたときより格段に楽しく感じられた、という経験はないでしょうか。喜びを共有できる相手がいると、食事には彩りが添えられます。テレビを見ながら「ただ同じ場所で食べる」というだけでは、そうはなりません。相手と顔を見合わせ、言葉を交わしてこそ、温かい空気が流れるでしょう。家族そろっての夕食は、その日の出来事などを話し合える、団欒(だんらん)のひとときです。

道徳で人と社会を幸せに

また、話題には上らずとも、子供の表情から、学校で何かあったのかな」と察することもあるでしょう。食卓で家族と向き合うことは、互いに心を通わせて、絆(きずな)を深めることにも役立つのではないのでしょうか。家族がそろって食卓を囲むことの意味を思い起こし、忙しい毎日の中でも、少しでもそうした機会をつくってみてはいかがでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『「ニューモラル」の心を育てる』編著者 三浦 浩二

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー—道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)5月27日(金曜日)

♡ 自然と共生してきた日本人

古来稲作を行ってきた日本人は、これに欠かせない水や森林などの自然をも大切に守り育ててきました。日本文化の特色は、自然を支配するとか利用するという考えではなく、自然を生かし、自然と共に生きてきた「共生の文化」であるといえます。富山和子さん(とみやまかずこ)立正大学名誉教授は、次のように述べています。「日本では、山の縁を払ってそこを穀倉地帯にしたのではなく、日本人が穀倉地帯にした

道徳で人と社会を幸せに

のは大河川の氾濫原(はんらんげん)であり、そこは海だか陸だか川だか分からないような葦野(あしのがはら)であり、その土地を洪水から守るためにも山へ行って木を植え、水を作るためにもまた、山へ行って木を植えた。(中略)高度に発達した文明国のなかで日本は、木を植えることで文化を育ててきた唯一の国だったのである」(『日本の米』中公新書)

今日、私たちは自然との「共生」を忘れてはいないでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『「ニューモラル」の心を育てる』編著者 三浦 浩二

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー—道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)7月8日(金曜日)

♡ 心の新陳代謝

江戸時代の儒学者・佐藤一斎(さとういつさい 一七七一〜一八五九)は、「少(わか)くして学べば、則(すなわ)ち壮(そう)にして学べば、す有り。壮にして学べば、則ち老ゆとも衰えず。老いて学べば、則ち死すとも朽(く)ちぢず」(『言志晩録』)と語っています。

若いときに学べば、壮年期を迎えたときに効果が出てくる。壮年期から学んでも遅くはなく、老年期の活力となる。そして老年期から学ぶことにも大きな価値があり、後世の人に

道徳で人と社会を幸せに

大きな影響を与えることもできる。世の中は今、めまぐるしく変化しています。私たちの体の細胞が、毎日の食事から得る栄養によっていつも新陳代謝して新しくなっているように、若い世代からも学びつつ、常に新しい知識を得て新陳代謝していくことは、私たちがいつまでも若々しく柔軟な心を保つための秘訣(ひけつ)といえるかもしれません。

「道徳」教科化—ヒントの泉

2022年(令和4年)7月22日(金曜日)

♡ 「おはなし」から生まれる親子のふれあい

夜寝る前、子供たちに絵本の読み聞かせや、自分が創作した「おはなし」をしているというご家庭もあるのではないだろうか。それは、日常のささやかな行為の一つといえます。また、「おはなし」は思いつきの創作話ですから、いってみれば、まったくばかげた話になるかもしれません。しかし親が語り、子供たちが聞き入り、家族で「おはなし」を共有するうちに、親子の間に心のつながりが生まれてくるのです。

道徳で人と社会を幸せに

こうした親子のふれあいの機会は、心にゆとりがあれば、日常生活の至るところに発見できます。忙しい毎日の中で起こる出来事をつまらぬことと考えて見過ごせばそれまでですが、その中に「親子のふれあい」や「家族の絆(きずな)」という価値と意味を見いだすことで、些細(ささい)な出来事が光り輝き、家庭を温かくすることに役立っていくのです。それは、私たちの心の持ち方一つであるといえるでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

2022年(令和4年)7月29日(金曜日)

♡ 「ありがとう」を言って見えてくるもの

子育てを終えて肩の荷が下りた矢先、夫が病に倒れたという主婦のYさん(五二歳)。療養中の夫を支える日々の中で、人生を心豊かに生きる秘訣(ひけつ)に気づいたといいます。

「夫は、私が何かをしてあげると必ず『ありがとう』と言っんです。その影響で、私も食事をつくらせてもらって『ありがとう』、体をふかせてもらって『ありがとう』と言っようになりました。ありがとうを言うことによって、ありがとうがたることがどんどん見えてくるん

道徳で人と社会を幸せに

です。例えば、夫や子供がいてくれてありがたいなあ。朝、目が覚めた、ありがたいなあ。ご飯が食べられる、ありがたいなあ……。それまで当たり前すぎて見えなかった、たくさんの恵みに気づいたんです。おかげで毎日が楽しいですよ。」これは心がけ一つで、いつでもどこでも実践できることではないでしょうか。日々、一回でも多くの「ありがとう」を、心の中でつぶやいてみませんか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155